ミリカ2020年8月13日（木）掲載

子育てコラム50
parenting column

子育ては楽しいこともあるけど悩みもたくさん。
そんなママのための役に立つアドバイス。

性教育（命の教育）その14
「豊かな性のありかた」

令和になってもまだ聞こえてきます。「女の子がそんな恰好ではしたない」「男の子がそんなに泣かんが」

ジェンダーとは、生物学的な性別（sex）に対して、社会・文化的に形成された性別のことを指します。ジェンダーが社会・文化的性別のこととして用いられ始めたのは1995年頃で比較的最近です。

性には「体の性」「心の性」「性的指向」「性表現」があります。「体の性」は生物学的性差で性器の性。「心の性」は性自認。自分で認識する性別のことで、トランスジェンダーと呼ばれる体と心の性が異なる方は大勢います。性自認が必ずしも男性・女性に分類されない方もいます。「性的指向」は恋愛などの感情を抱く相手がどの性別かということ。同性愛、両性愛、異性愛、無性愛、さまざまな愛があります。そして服装や仕草、話し方などの「性表現」。このようなことが絡まり合ってLGBTQなどの性的マイノリティや多様な性のありかたが形作られています。

最近は性的少数者や多数者の区別なく、全ての人が持つ属性としての「SOGI」という考えが広がっています。私たち皆が持っている性的指向と性自認のことです。さまざまな性に関しては数行で書き表せないほど複雑で深いものがあります。家庭や学校が性の多様性やSOGIについて話し合える場になってほしいと思います。

「性のありかた」は顔や性格と同じ、ひとり一人違ってあたり前のもの。男らしさでも女らしさでもない自分らしさを大切にされ、認められるべきものです。皆違うから素敵だし楽しい。皆違うから助け合うことができ、そこに優しさも生まれます。自分らしさを認められることで相手を認めることができます。人への思いやりも生まれ、人を批判したり非難したりしない気持ちも培われます。コロナ禍の中、皆で手を携え、お互いに認め合い協力し合える人であり、社会でありたいものです。

金子みすゞさんの詩〜わたしと小鳥とすずと〜『わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、とべる小鳥はわたしのように、地面（じべた）をはやくは走れない。わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、あの鳴るすずはわたしのように、たくさんのうたは知らないよ。すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。』全ての存在。ひとり一人の命。豊かな性。それぞれが素晴らしいこと。ありのままのあなたでいいこと。子どもたちに伝えていきたいものです。

子育ちひろっぱ「めぐみ」代表
弘田 恵子
大阪府立母子保健総合医療センターNICUや母乳育児相談室で勤務。その後20年間高知市内のめぐみ保育園で園長を務め、平成30年4月から子育ちひろっぱで、妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭（二種）、上級睡眠健康指導士。